まほろん通信

VOL. 3
（平成14年１月15日発行）

（財）福島県文化振興事業団
福島県文化財センター白河館
〒961－0835
福島県白河市白坂字一里段86
TEL　0248－21－0700㈹
FAX　0248－21－1075
URL http://www.mahoron.fks.ed.jp

好評だったおでかけまほろん

おでかけまほろん(館外体験学習支援事業)は、まほろんに遠い地域の方々にも、文化財への理解を深め体験していただくために、館を離れてご希望の場所で体験学習を行う事業です。本年度は、いわき市の久世原子ども会、相馬市立磯部小学校、福島市立金谷川小学校、いわき市立玉川中学校の４カ所での実施となりました。このうちの11月13日に行った金谷川小学校での様子をご紹介します。

金谷川小学校では、６年生の社会科の授業の一環として昼食を挟んで４時間の日程で行われました。最初に児童のみなさんに縄文土器に触れてもらいながら今野副主任学芸員が、「発掘作業の魅力」と題した講話を行いました。児童のみなさんは目を輝かせて講師の話に耳を傾け、4,500年ほど前の土器にそっと手を伸ばしてその重みを感じ取りながら、いにしえの生活に思いをめぐらせました（写真参照）。続いては滑石を削っての勾玉づくりです。製作の合間には古墳時代の勾玉を手にとって見たり、玉を磨いた砥石の観察も行いました。本物の資料を教材にできるところがまほろんの強みです。むかしの人のもつ技術の高さも児童のみなさんに感じていただけたと思います。ついには、各自の思いを込めて製作した「オリジナル勾玉」ができました。次は、２、３人で協力しながら「舞いぎり」「もみぎり」「火打ち石」での火おこしに挑戦です。はじめは悪戦苦闘していたみなさんも要領を得るとあちらこちらで歓声が上がり始めました。「舞いぎり」では、ほぼ全員が火おこしに成功しました。この日の体験を前に学校農園で収穫しておいたサツマイモが落ち葉の中に入れられ、代表児童がおこした火で焼き芋にされました。こんなことも日常の授業では味わえない楽しさでしょうか。最後に代表児童の感想発表があり、記念撮影を行い、おでかけまほろん金谷川小学校編は無事終了しました。

体験学習

まほろん探検隊、活動終了

今年８月から５回にわたって活動してきた「まほろん探検隊」が11月24日をもって今期の活動を終了しました。１，２回目は縄文土器づくり、３回目は栗ひろいや、石包丁などの道具を使っての稲刈り、４回目は土器焼きをしました。

そして最終回は、縄文土器を使った「イノシシ鍋」と、縄文風「木の実クッキー」を作って食べました。塩味のお鍋や、砂糖の入ってないクッキーは、隊員たちの表現を借りれば、「ビミョー」な味だったようですが、あの渋いドングリが食べられるようになっただけでもなかなか感動ものでした。

５回の活動を通して考えてほしかったことは、食べることって大変だなーということでした。よかったなと思うのは、親から離れて集まった見知らぬどうしの彼らが、まほろんでの活動を通してだんだん仲良くなっていったことでした。最終日、男の子たちが女の子たちをリヤカーに乗せて遊んでいる姿を見て、「とりあえず、今年の任務は完了だな」と思いました。

まほろん餅つき大会

さる12月２日(日)、一足早い年末気分を楽しもうと、餅つきをしました。「まほろん餅つき大会」の特徴は、奈良時代の遺跡から出てきたものとそっくりに作った道具を使ったことです。餅米は、「奈良時代の家」にある「かまど」や、復元した土器を使って蒸しました。蒸気をどんどん出すため、子供たちに火吹き竹で火を吹いてもらいましたが、煙にいぶされてみんな涙をボロボロ流していました。

蒸し上がった餅米を参加者全員で、臼と「堅杵」を使ってつきました。堅杵は、子供たちが使うには重すぎたようですが、おかあさんが手伝おうとすると、「一人でやる。」とがんばる頼もしい男の子もいました。つき上がったお餅は、あんこやきな粉、おろし餅にして食べました。体を動かしたせいか食が進み、３回もついたお餅はアッという間になくなりました。

＜１回目の餅つき＞

団体さんいらっしゃい！

この秋のまほろんは、連日団体利用のみなさんで大賑わいでした。オープンから現在まで学校や公民館、子ども会、デイケアサービス等幅広い年齢層の２００を越える団体利用がありました。

学校のご利用で多いのが遠足形式です。午前・午後に見学学習と体験学習を行い、その間に体験広場の芝生の上でお弁当を広げる。３時間あれば理想的なコースで、小学校にとても人気です。また、「総合的な学習の時間」を使っての来館もあり、数名で郷土学習の一環で訪れた地元の中学生や遠くから電車・バスを乗り継いで小グループで来館し歴史や文化財について学習した小学生もいました。学校に帰り、お礼の手紙を書いてくださる児童・生徒さんも大勢いて、そんなときはとてもうれしいものです。また、学級レクリエーションとして親子一緒に勾玉づくりや火おこし体験をされた学校やＰＴＡ研修の場にまほろんを選んでくださった学校もありました。

学校や公民館では、これから来年度の行事などの計画を立てられることと思います。ぜひ、来年度も多くの方々にまほろんをご利用いただけることを願っています。

＜団体でのアンギン編みのようす＞

館長講演会終了

９月29日「考古学とはどんなもの?」という演題で始まった館長講演会も、12月の第４回講演会まで、毎回多くの考古学ファンにお集まりいただき、好評のうちに終了しました。毎回、講演会の最後には、参加者と館長との質疑応答がなされ、考古学のナゾ解きも行われました。来年度も館長講演会は開催する予定です。

＜熱心に聴講する参加者＞

第３回企画展

第３回企画展　収蔵資料展

テーマ　「新編陸奥国風土記巻之一　白河郡」
会　期　平成14年２月２日（土）～３月31日（日）
場　所　当館特別展示室

今回の展示では、福島県教育委員会が中心となって発掘調査を行った県内各地の遺跡の中から、古代白河郡（現在の白河市・西白河郡・東白川郡・石川郡の一部）の地域にある遺跡について取り上げます。この地域で発見された旧石器～平安時代までの土器や石器、その他の出土品を展示し、白河地方の原始・古代の世界にみなさんをお誘いします。

古代白河郡の役所を発見

奈良・平安時代にも役所がありました。このころの役所はどんな所だったのでしょうか。発掘調査で見えてきた白河郡の役所の様子について紹介します。

古代白河の文字

奈良・平安時代の土器の中には、墨などで字が書かれているものがあります。古代の人たちは、どんな意味をこめて、どんな字を書いていたのでしょうか。

食器から探る古代白河の暮らし

縄文時代に土器が発明され、モノを煮て食べることができるようになりました。今回の展示では、古墳～平安時代の食器の移り変わりから、当時の生活がどの様に変化していったのかを紹介します。

古代白河の死後の世界

いつの時代も人間が避けて通れない「死」を、古代の人々はどのように考えていたのでしょうか。遺跡からわかる「死」の風景について紹介します。

白河の匠の技

石・木・金属などを材料に、旧石器～平安時代の白河地方の人たちはどんな道具を作ってきたのでしょうか。白河の匠の作品を紹介します。

白河美人の顔

縄文時代の土偶は女性を表しています。土偶に表現された顔から縄文時代の女性の顔を想像してみましょう。

＜「厨」の墨書土器と横穴墓から見つかった玉類＞

シリーズ復元展示

三角縁神獣鏡の復元　その３

実験スタート

三角縁神獣鏡の復元がスタートしました。会津大塚山古墳の三角縁神獣鏡が同笵技法によって作られている可能性が観察によってわかりました。が、はたして本当にこの方法で鏡を復元することができるのか、実験の目的の一つはこの点を確かめることにありました。鋳造技術に詳しい考古学者の中には、同笵鏡を作ることは技術的に無理だと考える意見もあるということは前にも述べた通りです。ただし実際に同笵鏡を作ることが可能かどうかを実験によって確かめられたことはこれまで一度もありません。実験で一つの鋳型から何枚もの鏡を作ることに成功すれば、三角縁神獣鏡が同笵法によって作られているかどうかは別として、同笵法は不可能ではないということをはじめて実証することになります。

実験のゆくえ

三角縁神獣鏡を、その形だけでなく、製作技術も含めて復元するためには、さらに解き明かさなければならない問題が山積していました。三角縁神獣鏡は直径が22センチをこえる大型品で、ただでさえ高度な鋳造技術が必要です。加えて、文様がきれいに鋳出されるかどうか、鋳型が複数回の鋳こみに耐えるかどうか、流し込む湯の温度など、さまざまな工夫やノウハウが必要です。が、鏡の鋳造経験のないわれわれには、一つ一つ実験を行って確かめなければならないことばかりでした。これを確かめるために準備した鋳型は70枚近くにも達しました。一つとして同じ鋳型はありません。すべて条件の異なるものです。

＜鋳型をチェックしているようす＞

これらの鋳型の製作には、鈴木さんのこれまでの研究でつちかってきた多くのアイデアが盛り込まれました。小田部さんはこれに応え多種多様な鋳型を製作するだけでなく、逆にここはこうしたほうがうまく行くのではないかとアイディアを出して応えます。まさに考古学と職人技の結晶により、三角縁神獣鏡が復元されようとしていました。（つづく）

研修課より

まほろん通信講座

石器実測入門 ～打製石器編～プロローグ

去る11月27日から４日間、県立博物館の藤原妃敏（ふじわらひとし）さんを講師に迎え、石器の実測研修を行いました。

研修では、藤原さんが実際に石を割って、叩いた時の力が石の中を円錐状に伝わっていくこと、石器時代人はこの特性を利用して、叩く角度と力の大きさを変えることで、つくりたい石器に合わせ、石のかけら（剥片（はくへん））のの厚さや大きさを調節していたことを実際に見せてくれました。つづいて、「石が割れる」原理を踏まえ、実際の石器の観察と実測を行いました。

「実測図」は単なるスケッチとは異なり、実測する人の観察と解釈が表現されます。そのため、同じ遺物を描いても人によって違うということがよくあります。また、一口に「実測図」と言っても様々な種類のものを作成することができます。製作技術やその順序を表現するもの、使用した痕跡を中心に描くものなど。しかし、日本で一般的に描かれている実測図は、製作技術の復元（どういうつくり方をしているか）に主眼を置いていることを忘れてはなりません。

次回は石器を実測する際の要点を具体的にご紹介したいと思います。乞う、ご期待！

＜石器の実測研修のようす＞

総務管理課より

収蔵資料の利用状況

まほろんでは福島県教育委員会からの委託を受けて、収蔵資料をより広く活用できるよう今年８月から閲覧・貸出し・見学等の希望に応じています。11月末までに資料閲覧５件、貸出し７件のご利用がありました。

１ 資料閲覧

・財団法人印旛郡市埋蔵文化財センター　石川町下悪戸遺跡出土墨書土器ほか、磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器ほか

・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　三春町柴原Ａ遺跡出土縄文土器

・個人(研究者等)　３件
郡山市荒小路遺跡出土縄文土器ほか、会津若松市船ヶ森西遺跡出土遺物ほか、飯舘村岩下Ａ遺跡出土石製品ほか

２ 資料貸出し

（１）遺　物

・青森県郷土館　磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器ほか

（２）写　真

・青森県郷土館　磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器ほか

・東北歴史博物館　三角縁神獣鏡(復元品)

・出版社等　４件　三春町柴原Ａ遺跡敷石住居跡、郡山市荒小路遺跡出土土偶、東村谷地前Ｃ遺跡出土石器

そのほかにも学校・公民館等、多数の団体が一般収蔵庫を見学されました。まほろんでは今後とも収蔵資料をより広く活用できるよう、資料の整備に努めていきます。なお、資料の利用に関わる詳細については、総務管理課までご相談ください。また、まほろんのホームページでも資料の利用についての案内をしていますので、ご覧ください。

まほろんからのお知らせ

まほろん「ひな祭り」参加者募集

内　　容　紙や粘土で「人形（ひとがた）」を作ります。
実 施 日　３月３日（日）　10時～12時
対　　象　小学生以上（材料費が200円かかります。）
定　　員　20名
申し込み　住所・氏名・年令・電話番号・イベント名を往復はがきに記入の上、郵送ください。（２月20日消印有効）

まほろん文化財講座

内　　容　当館学芸員による「縄文時代のおはなし」
実 施 日　２月11日（月）午後１時30分～３時
場　　所　当館講堂
定　　員　先着60名（申し込みは必要ありません。）

「おでかけまほろん」募集

好評のおでかけまほろんの来年度分の募集を２月頃にホームページ・印刷物等でご案内します。お見逃しなく！

ご利用案内

開館時間　９：30～17：00（入館は16：30まで）
休 館 日　月曜日（月曜日が祝日・休日の場合は開館し，その翌日が休館）、国民の祝日の翌日（土曜日・日曜日にあたる場合は開館）
入 館 料　無料（体験学習を行う場合は，材料費をご負担いただきます。）
そ の 他　団体（20名以上）でご利用の場合は，事前にご予約ください。